

■コーナー監修

古山登隆

FURUYAMA Nobutaka

医療法人社団喜美会

自由が丘クリニック理事長

Skill UP for Specialist

正しい施術とトラブル解決を学ぶ

医療法人社団喜美会
自由が丘クリニック院長

佐藤英明
SATO Hideaki

vol.4

ティアトラフに対する施術

下眼瞼の治療を希望して美容外科・美容皮膚科を受診する患者は多く存在する。手術、注入療法、再生医療、各種デバイスなどさまざまな治療があるが、1つの治療で満足させることは難しい部位である。受診する際に患者は、「クマを治したい」と訴える場合が多いが、色によるクマと影によるクマがあり、治療法も異なる。本稿では、加齢に伴い大きく変化する部位である下眼瞼の tear trough deformity を中心に説明する。下眼瞼の解剖や加齢変化に伴うメカニズムを理解したうえで治療に臨むことが重要である。

適応の有無

まず、snap testによって重症度を判断する。snap testは、下眼瞼を指で軽くつまんだ後にもとに戻るまでの状態を確認するものである。その時間が長ければ重度と考える。溝やふくらみの下側を指で押して(push test)、段差が改善するようであれば、ヒアルロン酸製材の注入でも改善が得られる。脂肪の突出が強い場合やたるみが重度であれば、手術を選択すべきである。

体位

手術の場合は、仰臥位(術中に坐位での状態確認が可能なリクライニング機能のある手術台が望ましい)。

ヒアルロン酸製材注入の場合、起坐位で行わないと注入位置が不明確となるため、椅子もしくはリクライニング機能のあるエステベッドなどが望ましい。

人数(手術に必要な人員)

ヒアルロン酸製材の注入であれば、1人でも可能である。手術に関しては、直接介助1名は最低限必要である。無影灯を使用する場合や、術中に起坐位で確認する場合は間接介助1名がいたほうがよい。

麻酔

局所麻酔で行う。手術の内容によるが、通常は1%エピネフリン®入りリドカイン溶液で十分である。眼窩下神経ブロックを併用するとよい。経皮的手術や脂肪注入術の場合は、笑気麻酔、静脈麻酔、全身麻酔も使用可能である。局所麻酔で、やや長時間の手術となる場合、ロピバカインを併用するとよい。

手術器具

経皮的手術の場合

●デザインペン ●局所麻酔用注射器 ●15番メス ●アドソン有鉤鑷子 ●7-0 ナイロン針, 5-0 吸収糸, 6-0 吸収糸 ●キルナー剪刀 ●糸切り用剪刀 ●持針器 ●スキンフック ●モスキートペアン ●小筋鉤 ●エレバラスパ ●滅菌綿棒 ●バイポーラー

※上記の他に微小眼瞼鑷子、モノポーラーなどを用意できれば、操作性・安全性が向上する。使用する糸は、手術内容により異なる。

ヒアルロン酸製材注入の場合

●デザインペン ●局所麻酔用注射器 ●麻酔テープまたはクリーム ●23G注射針 ●注入用の各種カニューレ ●綿棒

※付属の針を使用する場合は、局所麻酔や注射針、カニューレなどは不要である。綿棒は注入後の凹凸をならすために使用する。

SAMPLE